



志木市長 香川 武文

新たなフィールドで…

新年度がはじまり、市役所には、17名の新規採用職員が入庁しました。新入職員には、「超高齢化・少子化の進展や物価高騰など、目まぐるしく変化する時代においても『選ばれ続ける志木市』であるために、業務改善や市民の視点に立った新たな行政サービスに向けて、しっかりと声を出していこう」とエールを送りました。

さて、埼玉県市長会の調査によると、県内市では、市役所職員1人あたりの人口は平均で145人ですが、本市は県内で最も多い188人。少ない職員数であっても、行政改革の推進やICTの活用による効率的な運営を行い、質の高い市民サービスを提供することで、志木市は民間会社の自治体ランキングにおいても高い評価をいただくとともに、人口も維持できています。

しかしながら、今後、日本の労働人口はどんどん減っていきます。将来にわたって市民皆様の満足度を高めていくためには、優秀な人材の確保と職員のパフォーマンス向上に向けた働きやすい職場づくりも大切です。

本市では、令和7年度から「働き方改革推進事業」として、庁舎の窓口時間の短縮やビジネスカジュアルの導入、テレワーク勤務の拡充といった取組をスタートしていま

すが、4月からは第2弾となる「職員のさらなる働き方改革推進事業」を実施します。毎週金曜日は私が「家族・プライベートを大切にしよう！」とアナウンスし、18時30分には完全に市役所を消灯することで退庁を促す「金曜日一斉消灯デー」を設けます。また、男性職員も配偶者出産休暇や育休を取る時代、そうした職員の業務をカバーした場合に人事評価でポイントをアップさせる「休職者等カバー評価制度」の創設や業務の内容によってはTシャツなど効率的で働きやすい服装も導入していきます。

こうした他市に先駆けた取組で、令和7年度の新規採用試験の応募者数は、前年度より124人も増加し、人材の確保にもつながっています。これからも、「働きたくなる」志木市役所という視点も大切にしながら優秀な人材を確保し、持続可能な行政運営を維持していきます。

また、志木市では4月から小学校に576人、中学校には、667人の1年生が入学します。令和8年度は、未来を担う志木っ子たちが、元気に楽しく学べるよう、志木第二中学校の体育館の大規模改修工事や、昨今の猛暑を鑑み市内すべての中学校の必要な特別教室にエアコンを設置します。また、本市はそれぞれの学校で、学校栄養士が知恵と工夫を凝らし、季節の食材を取り入れた手作りの温かい給食を提供していますが、今年度は宗岡中学校の給食室の大規模改修工事を行うことで、引き続き、おいしく給食が提供できる環境を整えていきます。

新たなフィールドで第一歩を踏み出す新入職員や志木っ子たちは、志木市の成長と発展に向けた大切な宝。皆さんの可能性を最大限に引き出し、成長できる環境の整備をこれからもしっかりと進めていきます。